

平成20年9月18日

学年提案

提案者：京都市立修学院第二小学校 高 忍

1. 育てたい子ども像

「ことばを大切に、文章の内容を確かにとらえ、自分のおもいを広げたり深めたりできる子」

2. 学年でつきたい力

- ア 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話す力
- イ 互いの立場や意図をはっきりさせながら話し合う力
- ウ 話し手の意図をとらえながら、自分の考えを深めて聞く力
- エ 文章全体の構成の効果を考えて書く力
- オ 目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書く力
- カ 文章を的確にとらえ、自分の考えを明確にしながらかく力
- キ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む力
- ク 漢字や語句などについて理解する力

提案内容

- ア・声を育てるために、毎日「百人一首」を読み発声・口形に気をつけて声を出す場をつくり「意識して声を出す」ことを大切にしてきた。(2年目継続中)
 - ・スピーチや読書発表会など、話す場や機会を設定して「伝えたいこと」「言いたい事」などを明確にして話せるようにする。
 - ・資料や具体物を提示しながら説明や報告をし、相手にわかりやすいように話の構成を意識できるようにする。
 - ・スピーチメモを使い、自分の意見を筋道だ立てて話すことができるようにする。
- イ・様々な形態で話し合える場の設定をする。(ペア・グループ・全体など)
 - ・計画的に話し合う力を育てるために、話し合いカードや司会カードを使う。
 - ・話し合い活動や討論会に向けての準備ができるように討論会シートを使い自分の立場や意図をはっきりさせる。
 - ・自分の立場をかえて話し合うことで(例：肯定なら否定へ)違った視点から物事をみたり考えたりできるようにする。
 - ・話し合いのモデル学習をして、より良い話し合いができるように高めていく。
- ウ・話し手と自分の共通点や相違点を比べながら話を聞けるようにする。
 - ・スピーチや話し合いなどの質問や感想では、聞きたいことや深めたことをしぼって交流できるようにする。

- ・ ハンドサインを使うことで、互いに共感して聞けるようにする。
 - ・ 話し合いなどではメモを持ち、話し手と自分の考えを比べて聞けるようにする。
- エ・文章構成メモなどを使い、効果的に文章を書くためのヒントカードを使う。
- ・ より効果的に文章を書くために、教材文や参考資料などをヒントに書き方を学ぶ。
- オ・字数などを制限して、決められた条件で書けるようにする。
- ・ 事実と感想・意見などを区別して書けるようにする。作者はそれについてどう考えていて、自分はそのことについてどうなのかなど、文章を区別して書けるようにする。
 - ・ 経験したこと、想像したことなどをもとに、詩や短歌、俳句を作ったり物語や随筆などが書いたりできるようにする。
 - ・ 意見文や推薦文などの表現様式を知り、事物のよさを多くの人に伝えるために文章の書き方を学ぶ。その際、モデルとなる型を示し、それぞれの文章の特徴をつかめるようにする。
- カ・自分のおもいや考えを書き込んでいける「一人読みノート」を活用する。
- ・ より簡素化されたワークシートを使い、考えて書き進められるものにする。
 - ・ 「ことば」にこだわりをもたせられる読みを促す。
 - ・ 大事な言葉に着目し、主題にせまる読みができるようにする。
 - ・ 文章の要旨をとらえやすくするために、小見出しやキーワードを自分で整理できるワークシートを活用している。
- キ・教材文にとどまらず、より多くの本に出合える機会をつくる。
- ・ 比べ読みをして、学んだ教材文との違いや共通点などについて話し合う場の設定をする。
 - ・ 様々な本の中から、自分の生き方や考え方を重ねて読めるようにする。
- ク・単元に入ったときわかりにくい言葉については、辞書で調べられるようにする。(毎单元最初の時間で)
- ・ 毎週漢字テストを行っている。
 - ・ 毎日の家庭学習に漢字練習を。

現時点までの成果と課題

「話す」

毎日の発声練習の中で、声をしっかり出そうという場をつくってきたが、発声練習の時は気をつけていても、授業の中でということになると聞き取りにくい声を出す児童もまだまだいる。大きい声を出すのではなく、全体に届く声を出すことを意識させたい。

スピーチや報告会では、はじめ・中・終わりを意識して自分が考えたことを話の組み立てを意識して話せるように取り組んでいる。結論を先に言うのか後から言うのか、自分の意見を話のどの部分にもってくるのかなど、話の組み立てを工夫して話せるようにしてきた。その際、新聞の切抜きやキーワードなど具体物を提示してより話に具体性をもたせ相

手に伝わりやすい工夫をしながら話の中心をはっきりさせて話せるようにしてきた。

また、話し合い活動では、話し合いカードや司会カードを使って進めてきたが、話し合いを円滑に進めるための司会力を今後育てていく必要がある。また、話し合いをしたくなるような話題選びも重要になってくる。児童が「話し合いたい」「伝え合いたい」と思えるような話題と話題に対する自分の立場をはっきりさせて自信をもって言い合える場を大事にしていきたい。自分の考えを話し合いによって深められるような話し合い活動ができる姿を目指して今後も指導していくことが大切である。単元「カレーライス」では、話し合い活動に入る前に話し合い活動のモデルをクラス全員で見合い、よりよい話し合い活動をするための方法や順序などを全体で検討してから学習に入った。建設的な話し合い活動ができるように日々の実践を大切に続けている。

「聞く」

自分の考えや立場を明確にして、相手の意図をとらえながら聞くために、話し合いや討論会でのメモの活用は大事にしてきた。メモの取り方として、キーワードで記入したり文節で書いていったりするなどメモの取り方にも気をつけて指導している。聞き取りテストなどのメモ欄を見ていると、授業で学んだように記入できる児童が増えてきた。また、良い聞き手は良い話し手をつくるという意識は、高学年でも大いに高めたいことである。しっかり聞けるという態度を今後も大事に指導していきたい。

「書く」

授業の中で「書く」ことを大事に取り組みを進めてきた。特に、字数を制限して書くことやキーワードを使って書くことを、また、書き出しや文末表現に気をつけて書けるように取り組んでいる。「ガイドブックを作ろう」では、たてわり集会でよりたくさんの人に読んでもらうために、どのように文を構成し書き出しを工夫すると良いのか話し合った上でガイドブックを仕上げた。より良い文章を書くために、相手や目的にあった文章なのか伝えたいことがはっきりしているのか「だ・である」と「です・ます」が混在していないか 主述の関係は大丈夫か 句読点やかぎなどの符号は適切か といった観点を明確に提示して文章を推敲する習慣をつけている。

また、様々な表現様式を身につけるために表現様式を使ったモデル学習を行っている。「やまなし」では、推薦文を書こうということで、感想文と推薦文を比べて推薦文の特徴をつかんで学習を行う。様式に気をつけて文章を書く力が少しずつついてきたが、まだまだ繰り返し練習を重ねていくことが求められる。意見文や書評の書き方を学ばせることにもつなげていきたい。

「読む」

言葉にこだわりをもって文章を読み進める力をつけたり自分のおもいや考えを豊かに読んだりするために、「一人読みノート」を大事にしてきた。これまでの説明文や物語文では、まず自分の力で読んでみるという時間をとった。「一人読みノート」を継続して続けてきたことが、自分の読みを深めたりグループ交流や全体交流の時の手がかりになったりしてい

る。形式も一定にせず、様々な形式のワークシートから自分で選んで書けるようになってきた。継続して取り組んでいることが、本学年の児童の読む力としてしっかり定着してきた。また、ワークシートもできるだけ簡素化したものを使い、自分の言葉でまとめるという過程を大事にしている。まとめる際には、自分のおもいや考えを言語化することも特に大切にしているが、図式化するなど自分でまとめるという過程を必ず入れて学習してきた。また、こだわりたい言葉やキーワードを意識した読み、主題にせまる読みをしてきたことで、作品の背景にある作者の考えや生き方にそって読める児童も増えてきた。

多様なテキストを活用して読む力も国語科を通してつけた力である。単元「生き物はつながりのなかに」や単元「詩を味わおう」では、作者の他の作品を読むことで読み比べて読んだり、教材文や作者自身をより深く知ったりできる手がかりになってきた。教材文以外の作品を知ることが教材文そのものを深く知ることにつながったり、児童自身が自分の生き方や考え方を振り返ったりするきっかけにもなっている。よりたくさんの方に今後も出会わせたい。

「言語事項」

単元の最初に学習計画表や単元構想図を提示し、児童に学習の入り口と出口を示して学習を進めてきた。今年は単元構想図の下には、学習を通してこんな力をつけようということも具体的にいくつか示している。その中で、語彙の獲得や新出漢字の獲得もしっかりとつけていきたい力である。毎日の漢字学習はもちろんのこと、定期的にチェックしていくことで定着を図りたい。また、音読や朗読を大事にしその成果をしっかり聞き合う時間も継続的にしていきたい。

毛筆と同時に硬筆の学習もしている。丁寧に文字を書く意識を高学年においても高めた。